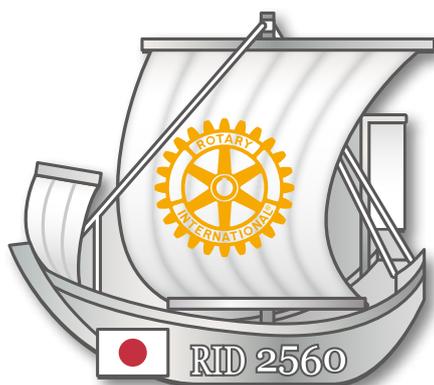


ガバナー月信



月信 7 月号

- ① ガバナーメッセージ
- ② 直前ガバナーからのメッセージ
- ③ ガバナーエレクトからのメッセージ
- ④ 地区幹事挨拶
- ⑤ 地区財務委員挨拶
- ⑥ 会員数報告
- ⑦ 地区主要行事予定 (7 月・8 月)
- ⑧ 新入会員紹介・訃報
- ⑨ 高橋年度地区バッジについて
- ⑩ ハイライトよねやま



ガバナー就任挨拶

高橋 秀樹 (新潟 RC)

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 ガバナー

このたび国際ロータリー第 2560 地区 2022-23 年度ガバナーのお役目をお預かりすることになり、一言御挨拶申し上げたく存じます。

2020 年 10 月に第二分区の皆様からの御推薦により思いがけなくガバナーノミネーとなり、以来、地区の皆様からの御指導と御協力の下に準備を進めて参りました。COVID-19 感染状況のため 2022 年の国際協議会は全面オンラインとなり、My Rotary で数十時間に及ぶ E ラーニングの研修を受けました。一方、PETS や地区研修・協議会はハイブリッド形式での開催となりましたが、会場の収容人数が許す限りでの対面参加と、比較的規模の大きい懇親会を実施することができて、幸いでした。これまで何かと辛抱強く状況に対応していくことが求められてきましたが、最近徐々に各種規制が緩和されており、明るい兆しと共に新年度が始まることを喜ばしく思います。

さて、2022-23 年度ジェニファー・ジョーンズ RI 会長のテーマは「IMAGINE ROTARY」です。想像力を働かせて、良き変化を導くための行動を実行に移すことが求められています。そして、国際ロータリーの価値観として特に DEI、即ち多様性、公平さ、インクルージョンが強調されています。

また、2022 年規定審議会では、様々な変更がありました。例えば、ローターアクトは今年度から国際ロータリーの正式メンバーになります。また、ロータリーの会員がクラブの所在地域に住居または事業場を有するという要件が廃止され、正会員はどのクラブに対しても入会候補者を推薦できるようになりました。そして、標準ロータリークラブ定款の第三奉仕部門が改正され、「地域社会における積極的平和を目指す」という文言が加えられました。このようにロータリーの在り方は刻々と変化しています。

こういった状況を踏まえ、地区運営方針として「再生、新生、共生」を掲げたいと思います。COVID-19 感染の困難からの出口が見えて来た中、慎重に構えてきた各種活動を以前にも増して活性化させるべき時期が来ていると思います。これが「再生」です。そのためには、新しい生活様式に即した、新しい工夫と手法の導入を考えていかななくてはならないでしょう。これが「新生」です。更にその成果を将来につなげていくため、ロータリアン同士の関係や、クラブと地区の在り方、ロータリークラブと社会の連携など改めて考えていくことが大切になるのではないかと思います。これが「共生」であります。

ロータリアンの皆様と各クラブの活動を支援し、実り豊かな年度にしていきたいと考えております。どうか御理解、御協力下さいますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



高橋年度スタートにあたり

高尾 茂典 (新潟中央 RC)

国際ロータリー第 2560 地区

2022-23 年度 直前ガバナー (2021-22 年度 ガバナー)

2022-23 年度、第 2560 地区の船出を迎えるにあたり、高橋ガバナーにおかれましては、ノミニ、エレクトとして様々な経験と研鑽を重ねられた上で、ガバナースタッフの皆様と共に、万全な準備を進めて来られたことと思います。

今年度の国際ロータリージェニファー・ジョーンズ会長の掲げたテーマは、「イマジン・ロータリー」です。世界にもたらせる変化を想像して大きな夢を描き、それを実現するためにロータリーの力とつながりを活かす様に呼びかけ、又、未来ビジョンとして、“夢を繋ぎ多様性豊かで活気溢れる未来のロータリー”を掲げております。この様なテーマをお受けになり高橋秀樹ガバナーは地区運営方針を、

「再生」：2560 地区はへこたれない

「新生」：2560 地区は進化する

「共生」：2560 地区は助け合う

と掲げられました。

既に、地区運営会議、PETS、地区研修・協議会等を通じて、地区内の多くのロータリアンの皆様に十分にご理解いただいていることと思います。

ロータリーも変革の時を迎えております。ロータリーの中核的価値観、「親睦」「高潔性」「多様性」「奉仕」「リーダーシップ」に基づき、過去を敬い、未来を見据えながら、進化を遂げること。すなわち、ロータリーを時代に即した組織とするだけでなく、繁栄させることが求められていることと思います。

高橋秀樹ガバナーには、どうか持ち前のアイデアとリーダーシップを十分に発揮して頂き、四つのテストと奉仕の理想を追求しながら、地区に新しく大きな成果を实らせていただきますようご期待申し上げます。

ガバナーにはご苦勞も多いと思いますが、新しい世界が待っております。特に同期ガバナーとの親しい交流や絆は、ガバナーを勤め上げた後も、かけがえのない財産となります。どうぞ、一年間を大いに楽しんでください。

結びに、高橋秀樹ガバナー、地区役員、スタッフの皆様のご活躍とご健勝、そして各クラブのご繁栄をご祈念申し上げ、お祝いの詞とさせていただきます。



高橋年度スタートにあたって

米山 忠俊 (三条北 RC)

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 ガバナーエレクト

高橋秀樹ガバナーにより、国際ロータリー第 2560 地区 2022 ~ 2023 年度のスタートをきったことを、大変喜ばしく思います。心よりお祝い申し上げます。

ジェニファー・ジョーンズ RI 会長の掲げられた年度のテーマはイマジンロータリーです。今後世界で起こる様々な変化を想像して、大きな夢を描き、その夢の実現の為にロータリーの力と絆を活かすように呼びかけました。そして、変化を良い結果に繋げるためには、その影響を受ける人たちにもプロセスに関わってもらう事が必要であり、皆で一致団結して取り組むようにと求めています。

高橋ガバナーは「地区運営方針」に

「再生」2560 地区はへこたれない。

「新生」2560 地区は進化する。

「共生」2560 地区は助け合う。

を掲げ、クラブと分区と地区ががっちりスクラムを組み、ロータリアンと社会の繋がりを活性化させましようと呼びかけました。

高橋ガバナーは何事にも真摯に取り組んでおられ、私も信頼しております。皆さん、一緒により良い年度になるように頑張りましょう。

最後に高橋ガバナー、山田地区幹事を始めガバナー事務所スタッフの皆様、大きな活躍が期待されているガバナー補佐の皆様、地区各委員長、委員を始め地区、全クラブの会長始め会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。これから私並びにガバナーエレクトスタッフ一同確りと勉強を重ねながら準備を進めて参ります。皆様のご理解とご協力の程何卒宜しくお願い申し上げます。





高橋年度のスタートにあたり

山田 隆一 (新潟 RC)

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 地区幹事

高橋秀樹ガバナーを輩出する新潟クラブの会員構成は 地元オーナー経営者が 30%、中央(東京等) 上場大企業支店長・管理職が 30%、地元中堅企業経営者が 20%、医療、法曹、寺社、大学関係等専門職が 20%で構成されています。通常地元オーナー経営者がほとんどというクラブが多いと思われませんが、新潟クラブの特色の一つです。

御存知の通り高橋ガバナーは新潟大学副学長も経験した現役教授であり自らもロータリー奨学生でした。経歴や職業は少数派ですが多様化する価値観に対応する必要があるロータリー活動にとって、ガバナーとして相応しく思いますしそのお人柄も大変良いです。

新潟クラブはおおよそ 10 年毎にガバナーを輩出し、高橋ガバナーも石本パストガバナー以来 10 年ぶりとなります。私も石本ガバナーとその前の横山ガバナー時、地区役員を経験をさせて貰いました。そこで今回厳しい状況の中で高橋ガバナーが引き受けて頂きクラブとしても大変誇りに思いますしクラブ一丸となって応援する支援体制を整えています。

私も地区幹事として高橋ガバナーを直接支える立場になり大変光栄で出来る限り頑張りたいと思います。

これから一年、皆様からのご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。





高橋年度のスタートにあたり

内山 博之 (新潟 RC)

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 地区財務委員

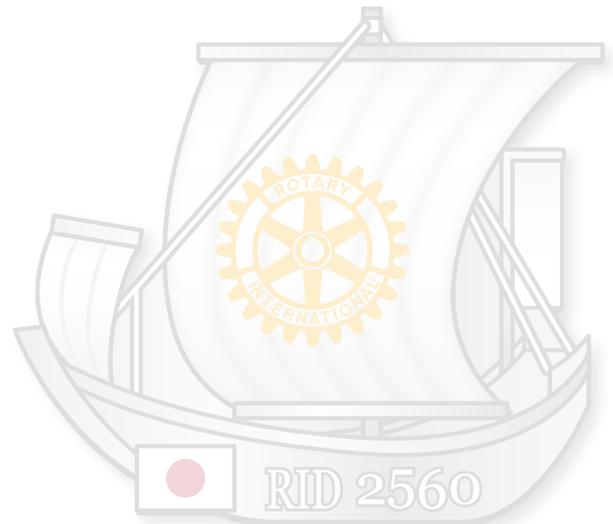
3月のPETS、そして4月の地区研修・協議会は予定通り開催することができ、いい形で高橋年度を迎えることができました。

今年度の高橋ガバナーの地区運営方針であります「再生・新生・共生」のもと、この2年間のCOVID-19禍からの回復の年度となることを踏まえ、今年度の予算組をいたしました。

収入の部の分担金につきましては、昨今の会員減少傾向を踏まえ、直近の2022年1月1日現在の会員数であります2,032名をベースに算出いたしました。これは、地区運営方針の遂行により、各クラブの活性化そして、各クラブ間の繋がりを強化していく中で、会員減少に歯止めをかける意味で、最低の会員数といたしました。また、一人当たり分担金（一般会計・特別会計）につきましては、今年度の支出をほぼ賄えるよう、前年度の高尾年度と同額をご負担いただくことといたしました。

一般会計支出につきましては、委員会予算のうち、RLI推進委員会については、高橋年度は休止ということ、また規定審議会の今年度開催はございませんので、規定審議会補助金も共に予算組はしておりません。それ以外は、高尾年度の同程度の予算組をさせていただきましたので、存分にロータリー活動に励んでいただければと思います。特別会計支出については、一部繰越金を利用させていただき予算組をさせていただきました。

地区運営が、滞りなく進められるよう、地区運営方針に則った予算執行をしっかりと参りますので、本年度1年間よろしくお願いいたします。



第 2560 地区 2021-22 年度 5 月末 会員数報告

R C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数			
			2021年 7月1日	5月末 会員数	うち女性	増減
第1分区 (9クラブ)		-	372	379	34	7
新発田	5	29.0%	93	93	0	0
村上	3	17.5%	38	40	9	2
水原	2	21.9%	32	32	1	0
中条	3	97.8%	41	45	3	4
新発田城南	3	21.6%	40	37	3	-3
豊栄	3	12.5%	20	24	2	4
新発田中央	3	4.4%	44	45	4	1
中条胎内	3	51.4%	36	37	7	1
村上岩船	3	23.1%	28	26	5	-2
第2分区 (9クラブ)		-	433	443	26	10
新潟	4	27.4%	82	85	2	3
新潟東	3	17.2%	62	64	8	2
新潟南	3	32.4%	105	108	3	3
佐渡	2	80.0%	6	5	0	-1
新潟西	3	50.0%	39	40	2	1
佐渡南	2	12.2%	40	41	4	1
新潟北	4	27.0%	37	37	0	0
新潟中央	4	38.1%	21	21	0	0
新潟万代	4	52.4%	41	42	7	1
第3分区 (6クラブ)		-	97	103	6	6
新津	3	11.8%	17	18	1	1
村松	4	63.6%	12	11	0	-1
五泉	3	0.0%	11	11	1	0
白根	2	28.1%	29	32	1	3
新津中央	4	32.0%	22	25	3	3
阿賀野川ライン	2	0.0%	6	6	0	0
第4分区 (11クラブ)		-	366	361	27	-5
三条	3	12.3%	56	57	0	1
燕	2	9.7%	34	32	2	-2
加茂	3	8.6%	33	35	6	2
三条南	4	15.8%	44	38	2	-6
分水	4	82.1%	29	28	4	-1
見附	3	4.8%	21	21	1	0
吉田	4	6.7%	28	30	3	2
三条北	4	8.8%	58	57	2	-1
巻	3	0.0%	25	25	3	0
田上あじさい	4	14.3%	7	6	1	-1
三条東	3	6.3%	31	32	3	1

R C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数			
			2021年 7月1日	5月末 会員数	うち女性	増減
第5分区 (7クラブ)		-	296	296	24	0
長岡	4	77.3%	45	44	3	-1
柏崎	3	2.5%	41	40	0	-1
長岡東	2	28.3%	52	53	3	1
柏崎東	2	17.4%	45	46	3	1
栃尾	3	12.0%	25	24	0	-1
長岡西	3	20.0%	50	50	3	0
柏崎中央	3	23.1%	38	39	12	1
第6分区 (6クラブ)		-	122	126	11	4
十日町	3	28.1%	32	32	4	0
小千谷	3	10.3%	30	29	3	-1
雪国魚沼	3	20.0%	20	25	3	5
十日町北	3	0.0%	18	18	0	0
津南	4	18.8%	16	16	1	0
越後魚沼	3	16.7%	6	6	0	0
第7分区 (7クラブ)		-	312	322	23	10
高田	3	32.0%	72	75	5	3
直江津	4	31.3%	69	69	6	0
新井妙高	3	11.1%	31	36	1	5
糸魚川	3	69.8%	41	43	3	2
高田東	4	66.7%	36	36	3	0
糸魚川中央	3	55.6%	28	27	0	-1
越後春日山	3	94.4%	35	36	5	1

クラブ数	55 クラブ
7月1日会員数	1,998 人
5月末会員数	2,030 人
女性会員数	151 人
純増減会員数	32 人
My Rotary アカウント登録率	28.3 %

※先月号の訂正
 4 月末日会員数
 雪国魚沼 RC 【24 名(女性会員 2 名)⇒ 25 名(女性会員 3 名)】
 2560 地区合計 (2,027 名⇒ 2,028 名)

地区主要行事予定

2022年6月22日現在

年 月 日			行 事		会 場	
2022年 (R4) 高橋年度	7月	1	(金)	第1回ガバナー会議/ガバナー・元・次期ガバナー懇談会	東京都内	
		9	(土)	高尾年度感謝の集い	ANAクラウンプラザホテル新潟	
		10	(日)	全国青少年交換・危機管理委員長会議	AP日本橋	
		16	(土)	危機管理委員会	ホテルオークラ新潟	
		16	(土)	インターアクト年次大会 (ホストクラブ：新潟RC)	オンライン	
		23	(土)	地区補助金オリエンテーション・奨学生オリエンテーション	万代シルバーホテル	
		30	(土)	ガバナー補佐会議	ホテルオークラ新潟	
			30	(土)	会員増強セミナー	ホテルオークラ新潟
	会員増強・新クラブ結成推進月間					
	8月	5	(金)	大学担当者向け米山制度説明会	ホテルオークラ新潟	
		6	(土)	ロータリー財団地区資金監査	万代シルバーホテル	
		27	(土)	第1回地区ロータリー財団セミナー	ANAクラウンプラザホテル新潟	
		28	(日)	第2回米山カウンセラー研修会		
		28	(日)	米山奨学生研修会		
28~29		(日~月)	米山記念奨学生親睦交流会 RIJYM総会 防滅災セミナー			

【新入会員】

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
長岡東	鈴木 泰史	2022.05.18	あいおいニッセイ同和損害保険(株) 長岡支社	支社長	損害保険
直江津	赤坂 信一郎	2022.06.07	UDトラックス新潟株式会社 上越支店	支店長	自動車小売業
直江津	竹越 弘至	2022.06.07	株式会社クレセント新潟	代表取締役	物品賃貸業
直江津	小山 慶	2022.06.07	株式会社小山工業所	代表取締役社長	金属製品製造業
長岡東	喬 雪水	2022.06.08	学校法人中越学園 長岡大学	専任講師	私立大学
新発田城南	姉崎 雄一	2022.06.09	NKエンジニアリング(株)	代表取締役	自動車整備業

【訃報】

RC	氏名	逝去日	会社名	役職	職業分類	経歴・その他
栃尾	稲田 育彦	2022.05.11	栃尾ニット(株)	社長	合成繊維	2000-2001栃尾RC会長 2021-2022栃尾RC米山奨学 委員会副委員長
長岡東	田村 巖	2022.06.01	(株)田村商店	代表取締役会長	紙配布	1985-86年度 クラブ会長

2022-23年度 地区バッジ デザイン趣旨 北前船

北前船（きたまえぶね）とは、江戸時代から明治時代にかけて日本海海運で活躍した北国廻船です。その航路は、大阪、瀬戸内、下関、北陸各地をつなぎ、北海道、樺太まで伸びていました。

現在の新潟県にあたる地域の寄港地としては、岩船、桃崎浜、新潟、寺泊、出雲崎、柏崎、直江津、能生、糸魚川、赤泊、大川などがありました。

新潟にある北前船の博物館・資料館としては、新潟市文化財旧小澤家住宅・北前船の時代館、海運資料館（佐渡／記念館・史料館・資料館）、みなとぴあ（新潟市歴史博物館）などが挙げられます。

新潟各地をつなぎ、新潟と他地域をつなぎ、資源と活力を流通させた北前船のように、RI2560 地区のロータリークラブが新潟各地と世界をつないで未来を切り拓いていくことを祈念したデザインです。

Kitamaebune was a type of ship that sailed the Sea of Japan from the Edo period to the Meiji period. Their routes connected Osaka, the Seto Inland Sea, Shimonoseki, Hokuriku, and even Hokkaido and Sakhalin.

In the area that is now Niigata, the ports where Kitamaebune stopped were Iwafune, Momosakihama, Niigata, Teradomari, Izumozaki, Kashiwazaki, Naoetsu, Nou, Itoigawa, Akadomari, and Okawa.

There are some museums and archives of Kitamaebune in Niigata. The Niigata City Cultural Property "Former Ozawa Family Residence", "Kitamaebune no Jidai-kan", "Museum of Ships (Sado / Memorial Hall and Archives)", and "Minatopia (Niigata City Local History Museum)".

This design is intended that Rotary clubs in District 2560 will open up the future by connecting various parts of Niigata and also connecting Niigata with the world, as the Kitamaebune connected various parts of Niigata and distributed resources and energies between Niigata and other regions,





1. 50万ドルの恩返し

アメリカ在住の米山学友、周順圭さん（中国出身／1962-63:東京西RC、1963-65&66-68:東京世田谷RC）が5月31日に当会を訪れ、個人として50万ドル（約6,650万円）の大口寄付をお申し出くださいました。



事務局を来訪した周さん(前列左)

周さんは1958年来日。東京工業大学学部課程、同大修士課程を卒業後、東京大学博士課程へ進学、工学博士の学位を取得した後、渡米しました。半導体の専門家として数々の企業を成功に導き、シリコンバレーのハイテク業界では

広く知られている人物とのことです。

今年86歳になる周さんは、生まれ育った中国、専門教育を受けた日本、そして仕事での成功をおさめたアメリカの懸け橋となって支援していきたい、それぞれの国への恩返しの気持ちを

込め、今回の寄付をしたいとお話してくださいました。

翌6月1日には、54年ぶりに世話クラブの東京世田谷RC例会へご夫妻で出席し、大友敬会長から名誉会員の称号を授与されました。

2. 寄付金速報 —今年度の寄付は30日（木）まで—

5月までの寄付金は前年同期と比べて0.8%減（普通寄付金:0.8%減、特別寄付金:0.8%減）、約1,000万円の減少となりました。今年度予算として、普通寄付金4億1千万円はすでに達成し、特別寄付金8億7千万円まではあと5,600万円弱と今年度分の「予算達成」はほぼ確実に

なりました。皆さまからのご支援に厚く御礼申し上げます。

今年度の寄付実績は、普通寄付金・特別寄付金ともに**6月30日（木）までに当会銀行口座に入金記帳された分まで**となります。ご送金の際には日程に余裕をもってお送り下さい。

3. ゴトン ロヨン — 市民科学者になろう —

5月1日、マレーシアの海岸清掃を目的とする「ゴトン ロヨン ～市民科学者になろう～」プロジェクトが、マレーシア米山学友会の呼びかけで開催されました。ゴトン ロヨンとは、マレー語で「共同作業」を意味します。

今年、マレーシアのルックイースト政策が40周年を迎えることを記念し、ただ海岸清掃をするだけでなく、大学の海洋研究機関の協力を得て集められたゴミを分析、そのデータを政府に提供するこ



とでより良い環境づくりに繋がりたい、というものです。同学友会の呼びかけにより、在ペナン日本総領事の折笠弘維氏と総領事館スタッフ、

州議員、現地NGOを含む総勢120人が参加し、多数の現地メディアやテレビでも取り上げられました。

マレーシア学友会会長の黄麗容さん（横浜泉RC）は、「地元メディアを通じて発信されたことで、一般市民の方々の環境への意識を変えることができたのではないかと、述べました。

4. 初めてのホームカミングデーが開催

5月21日、国際ロータリー第2750地区ロータリーファミリー支援委員会主催の「”Re-CONNECT” ROTARY FAMILY HOME COMING DAY」が国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されました。会場には約150人が集い、海外在住のロータリー学友20人がZOOMで参加しました。



サコさん(後列中央)と米山学友の皆さん

このホームカミングデーは、ロータリーのさまざまなプログラムを修了した学友、ロータリアン、ローターアクターが一堂に会し、「つながる」ことを目的に開催されたものです。当日は、米山学友・奨学生も多数参加し、ロータリーファミリーとの交流を深めました。



今回は第1回の開催を記念し、京都精華大学前学長であり、元米山奨学生のウスビ・サコさん(京都北RC)が基調講演を行いました。続くパネルディスカッションでは、ロータリー財団学友の菅生零王さん、米山学友の沈雨香さん(東京iシティRC)とともにサコさんも登壇。米山奨学金事業について、「ロータリーへの感謝は言葉では表現できない。自分が活躍することがロータリーへの恩返しになる。次の世代のことを考えて行動していきたい」と述べました。

5. 次年度地区米山委員長セミナー開催報告

2022-23年度の地区米山奨学委員長を対象とする第2回セミナーを5月31日、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。

若林紀男理事長の挨拶に続き、井原實常務理事から委員長に期待することについて講話をいただきました。事務局からは、学校説明会や指定校選定における注意点、また、地区と世話クラブとの連絡体制作り、広報関連の説明を行いました。

その後5グループ(うち2グループはZOOM)に分かれ、寄付増進、奨学生育成、学友会などをテーマに、各地区における現状の課題や、取り組みについてディスカッションを行いました。最後にディスカッションの内容を代表者が発表し、水野功副理事長の講評で閉会となりました。第1回セミナーではディスカッションで「十分な議論

ができなかった」とのご意見があったことを受け、今回は120分取ることで、「各グループで内容の濃い話し合いができた」と、好評の声をいただきました。

